

震発生でほとんどの人たちが逃げたのに対し、その地区の人たちだけは、力を合わせて救助活動や消火活動をしたからなんです。なんとといっても、日ごろの訓練や心構えが大切です。

私の家では、非常持出品、避難用具は玄関に置き、外へ出る時の通路も決めてあります。

## 水の確保が大切

風岡三枝子さん

上横割(34歳)

我が家で、防災対策を本格的に考え始めたのは、ちょうど東海大地震説が騒がれた頃でした。

まず第一に考えたのは、水を確保しなければということでした。

ある程度の量の水を常時確保するには、保存のきく水でなければと、黒部溪谷から流れ出る水が、健康にも良く保存もきくということを知り、毎年一度、富山県まで水をくみに行き、この水を20ℓのポリ容器3本に常時、確保してあります。

このおかげで、8月8日の地震による断水にも我が家では困りませんでした。このほか、非常袋を三袋用意し、一つは食料品、一つは衣類、

一つは雑用品類と分けて入れてあり、どの袋を誰が持つかをあらかじめ決めてあります。

もちろん中身の入れ替えも年2回点検を兼ねてやっています。

また防災頭巾も住所、名前、血液型を記入した布を縫いつけ、一階と二階にそれぞれ用意し、家のどの場所においてもいざ地震という時には、かぶれるようにしてあります。

いずれにしても、自分達の事は自分達で守るという姿勢と、日頃の備えが必要だと思います。



避難体制完了の風岡さん親子

一づくりに力を入れています。

また、私達の地域では、住民の75%が共働き世帯のため、昼間の災害時には、大人の手が足りません。

いくら訓練を積んでも実際に即した訓練でなくては役に立ちません。

そこで、3年前から比較的帰宅が早い中学生を中心とした訓練を実施し、これを大人が指導、補佐するという内容にしています。地域の連帯感を深めること、これが防災対策のうえで大切ではないでしょうか。

## コミュニティづくりを

大塚芳郎さん

広見9防災会長(62歳)

私は、防災対策はまず地域のコミュニティづくりから出発すべきだと考えています。

災害時には、隣近所はもちろんのこと、地域全体が協力しあわなければ何もできません。そこで私達の地域では、いろいろなリ克雷ーション活動を通じ、住民間のコミュニティ

## 観光バスで 富士の案内を



坪井 恵美子さん  
厚原西(19歳)

### プロフィール

今年の3月、バスガイドになるため、横浜市から富士市へ。現在、富士急行鷹岡営業所へ籍をおくバスガイド一年生。どんな年齢層からも好かれるようなガイドになりたいというフレッシュなお嬢さん。

坪井 歌が大好きですし、いろいろな所へいろいろな人と行けるので……。  
坪井 もう全国をまわりましたか  
坪井 まだ新米ですので富士五湖とか箱根とかこの周辺ですが、徐々に遠まわりがふえてくると思います。  
坪井 さて横浜というと大都会ですが  
坪井 私の住んでいたのは、緑区といって横浜市の郊外ですから山も近く、緑も豊富で自然環境に恵まれている所です。  
坪井 自然環境といえば富士市もひげはとりませんが  
坪井 そうですね。富士山はすぐそばだし海も近くすばらしい所ですね。何か共通点があるような気がします。  
坪井 富士市の印象は  
坪井 川がとてもきれいで空気もいいですね。それに両親の実家が清水市で富士と近いせいか親しみを感じていました。  
坪井 行政へ望むことは  
坪井 職業がら道路が狭いのが気になります。市内のどこへでも観光バスが入れば富士の名所も案内できますが。